

県立鹿島灘高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創意と活力に満ち、生き生きと学ぶことのできる安全・安心な学校 ○ 一人一人を生かし、個性の伸長を図ることのできる学校 ○ 生徒自らが自信と誇りを持ち、活力にあふれた学校 ○ 地域に根ざし、信頼され期待される学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>(成果)</p> <p>1 生徒の実態に即した学習指導の工夫改善と「分かる授業」の展開により、生徒が積極的に学習に取り組むようになった。</p> <p>2 全教職員の共通理解・共通実践に基づいた生徒指導により、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>3 特別な支援を要する生徒について、鹿嶋市内の中学校から個別の支援計画の引継ぎを行い、キャリア教育、就労支援に活用することができた。</p> <p>4 スクールカウンセラーやキャンパスエイド、養護教諭、専門機関等との連携を密にとり、保護者の理解も深化した。また、問題の適切な解決につながった。専門的知見を交えた研修会の充実により個に応じた指導の推進が図られた。</p>	<p>1 基礎学力の定着と「分かる授業」の創意工夫</p>	<p>(1) 各種検定・資格等の受検を奨励し、授業と連携しながら合格者の増加を図り、主体的に学ぶ学習態度の育成を目指す。</p> <p>(2) 生徒の実態を踏まえた指導内容の精選、個に応じたきめ細かな指導の工夫及び改善を図ることで、「分かる授業」を展開し、基礎学力の定着を目指す。</p> <p>(3) 授業公開週間を設定し、教員相互の授業参観を行うなど校内研修を行い、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する。</p>	<p>B</p>
<p>3 特別な支援を要する生徒について、鹿嶋市内の中学校から個別の支援計画の引継ぎを行い、キャリア教育、就労支援に活用することができた。</p>	<p>2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚</p>	<p>(1) あいさつ運動やマナーアップ運動、遅刻指導等を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒への日常の「声かけ」を重視し、望ましい人間関係を構築することにより、規範意識の高揚を図るとともに、予防的・開発的生徒指導を実践する。</p> <p>(3) 職員の共通理解に基づき、生徒自ら時と場に応じた身なりができるよう、日頃からの服装・頭髪の指導を推進する。</p>	<p>A</p>
<p>4 スクールカウンセラーやキャンパスエイド、養護教諭、専門機関等との連携を密にとり、保護者の理解も深化した。また、問題の適切な解決につながった。専門的知見を交えた研修会の充実により個に応じた指導の推進が図られた。</p>	<p>3 特別活動の充実</p>	<p>(1) 体験型の学校行事やボランティア活動の充実を図り、達成感や連帯感の涵養と豊かなコミュニケーション能力と積極的に社会参画しようとする態度の育成を図る。</p> <p>(2) LHR の充実を図るとともに、個人面談（5回/年）等を実施することで生徒理解に努め、心の居場所としてのホームルーム経営を工夫する。</p> <p>(3) 生徒の部活動や学校行事等への積極的な参加を促し、学校の活性化を図るとともに、キャリアパスポートを作成し、社会性やリーダー性を育てる。</p>	<p>B</p>
<p>(課題)</p> <p>1 「分かる授業」に向けた一層の工夫改善により、基礎学力の定着と主体的な資格取得、ICT を用いた教員の指導力向上を推進する。</p>	<p>4 進路指導の充実</p>	<p>(1) 全職員によるきめ細かな指導や各種セミナー、見学会等を改善充実させることにより、生徒の進路意識を高揚させ、進路決定率の向上、定着率の向上を図る。</p> <p>(2) 進路行事の充実により、一貫したキャリア教育の体系を構築するとともに、個別の進路実現に向けた基礎学力の定着、面接指導の充実を図る。</p> <p>(3) 特別な支援を要する生徒に対し、生涯にわたって自立し、社会参加していく力を育成するために特別支援学校、企業、社会福祉等の関係機関と連携を強化し、キャリア教育と就労支援を推進する。</p>	<p>A</p>
<p>2 観点別評価を有効に活用し、生徒の主体的に授業に取り組む姿勢を育てる。</p>	<p>5 カウンセリングの充実</p>	<p>(1) 常時相談に対応できる教育相談体制の継続と、相談室と担任等との連携強化を図る。</p> <p>(2) カウンセリングコーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭、キャンパスエイド等が相互に連携・研究し、生徒の心の内面に迫りながら、心理教育的アプローチを生かした学級づくりと授業づくりの一体化を図る。</p>	<p>A</p>

別紙様式 2

3 豊かなコミュニケーション能力や社会参加の意識を高めるため、学校行事の参加率向上や主体的なボランティア活動の参加を図る。			(3) 個々の生徒について教職員全体が共通理解をもって指導に当たれるよう、専門的知見も交えた研修の一層の充実を図る。			
4 生徒の進路実現に向け一貫したキャリア教育を推進し、就職先に定着しようとする意識を育てる。		6 開かれた学校づくりと地域との連携の推進	(1) 地域ボランティア活動への参加や積極的な学校公開、聴講生（陶芸、書道、中国語）制度の活用により、学校・家庭・地域社会が一体となった教育活動を推進する。 (2) ボランティア活動、防災訓練等の学校行事に保護者・地域住民が参加できるよう工夫改善し、開かれた学校づくりを推進する。 (3) 広報紙や学校HPを通して、本校の特色を積極的に広報し、フレックススクールとしての特色ある活動への理解と協力を得る。	A		
		7 働き方改革	(1) 全職員に「きんむくん」利用を奨励し、在校時間の意識付けを行う。 (2) 職員の適性を生かした校務分掌配置を行い、職務の均整化を図る。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題	
教	国語	基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	・漢字学びなおしプロジェクトとして、年間20回前後週末課題を出題し、基礎学力の向上を目指す。 ・辞書を引く機会を増やし、理解不足の語彙や事項について自ら調べる姿勢を養う。	A	B	・GIGAスクール構想に向け、ICT教材の利用の実践が課題である。
		読解力、思考力、表現力を養う。	・単元ごとにテーマに沿って記述したり発表したりする機会を設定することで、読解力、思考力、表現力の向上を目指し、学習活動が個々の生徒の伸長につながったという充実感を高める。	B		
	地理 歴史	地理・歴史分野に関する基礎・基本的な内容の定着を図る。	・映像や地図、文字資料などを的確な場面で活用し、身近でわかりやすい授業を展開する。	B	B	・新型コロナウイルスの影響で年間指導計画通りに展開することはできなかったが、地歴・公民共に、生徒が主体的に授業に取り組めるよう、身近でわかりやすい題材を提示し、授業を展開することができた。
			・学習内容を振り返る時間を適切にとり、その定着を図るとともに、時代や地域を比較させる力を身につけさせ、対話を大切に授業を展開する。	A		
	公民	現代社会の特色を広い視点から捉え、社会の諸問題について理解し、考える力を育てる。	・社会のさまざまな諸問題に関する題材を適宜提示し、生徒に考えさせ表現させる。	B	B	
			・各単元に即した資料や事例をもとに、現代社会の諸事象をわかりやすく説明する。	B		
・少人数の授業では、生徒一人ひとりの関心に応じた学習を取り入れ、主体的な取り組みを促す。			A			
科	数学	基礎学力の向上を図る。	・少人数授業を実施することにより、個に応じたきめ細かな指導を実施する。 ・習熟度別クラス分けをし、各レベルに応じた授業展開でそれぞれの基礎学力の向上を図る。	A A	B	
		進路目標や学力段階に応じた指導に努める。	・検定に向け意欲を喚起しながら、個のレベルに応じて数学検定の資格取得を目指す。	C		
	分かる喜びを実感できる授業への改善に努める。	・正解を導いた達成感や「数学の良さ」を感じさせる指導に努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業方法について検討し、実践する。	B			
	理科	自然科学に対する興味関心や探究心を高め、科学的に探究しようとする意欲の向上を図る。	・科学に関する基礎的な知識を身につけさせるため、身近な事物や現象を題材とし、自然に対する興味・関心を育み、日常の中の科学を意識させる。	A		B
・各科目の指導に必要な情報の交換・研究を教員間で積極的に進め、各科目のつながりを意識しながら授業を行うことにより、体系的理解から知識の定着を図り、科学的な思考の基礎を身につけさせる。			B			

別紙様式 2

教	保健体育	規律よく集団で行動できる力を育てる。	・集団行動の授業を行い、規律よく行動できる力を育てる。	A	B	・新型コロナウイルス感染予防対策を講じて授業を実施することができた。しかし時間を追うごとに感染対策が緩くなってしまった。 ・今後、技能の差が大きくなっていくことを考えると、一人ひとりの技能に合わせた指導をしていく必要がある。
			・集団行動を通して、全体と自分自身との価値観や距離感を感じさせる。	A		
		精神力と体力を育て自主・自発的に活動できるように育てる。	・新体力テストの記録を授業で活用し、準備運動を工夫することにより、怪我の未然防止に努め、基礎的な体力の保持増進及び全身持久力の向上を図る。	B		
		また、様々な選択肢の中から自分の個性を発揮できる能力を開発する。	・選択制の授業を導入し、生徒一人一人が自主的・自発的に活動できるように授業を展開する。	B		
			・保健の授業を通して、生活習慣や性感染症の分野等から、基本的な生活習慣や性に関する正しい知識と理解を身に付ける学習を行う。	A		
		・保健の応急処置の分野で心肺蘇生法を行い緊急時に対応できる技能を身に付ける学習を行う。	B			
芸術	基礎力の定着を図る。	・基礎的な知識や技術を習得することに重点を置き、繰り返し学習することで定着を図る。	A	B	・新型コロナウイルス感染予防対策をしっかり行った上での実技内容を工夫する必要があると感じた。 ・生徒一人ひとりの実態に合った指導の工夫がさらに必要である。	
	芸術文化に触れる。	・芸術文化を味わうために、作品鑑賞の機会をできるだけ多く設けるように努める。	A			
	表現する喜びを味わうとともに芸術を愛好する心を育てる。	・基礎力を活かして、創造的な表現や発表ができるようにし、一人一人が達成感を得られるようにする。	B			
外国語(英語)	基礎学力の定着を図る。	・毎時の授業開始時に小テストを実施し、評価する。またその内容を定期試験の中でも出題し、ポイントの定着を図る。さらに「小テスト進捗表」を各科目で作成し、生徒がその達成状況を一目で確認できるようにする。	B	B	・生徒ひとりひとり理解度に大きな差があるので、上位を伸ばすとともに下位の生徒たちへのさらにきめ細やかな支援が必要である。タブレットをいかに効果的に活用できるか大いに不安である。	
		・各課が終わる毎に「音読テスト」を生徒個別に実施し、音声面での基礎学力の定着を図る。	B			
	英検受検者の増加を図る。	・授業等でも英検に向け意欲を喚起しながら、級別または個別に課外を計画実施し、面接試験を含めてきめ細かな指導をする。	B			
	英語が分かる喜びを実感する授業への改善に努める。	・ALTを積極的に活用してネイティブの英語に触れたり、英語での質問を多用したりすることで英語が「分かった、通じた」喜びを実感させる。 ・授業を公開し、生徒の実態に合った授業内容・方法等について教科内で研究協議し、その成果と課題を明らかにし改善策について検討する。	B			
家庭	基礎力の定着を図る。	・教科内で協議し、分野ごとに、授業内容を精選し、より分かりやすい授業を目指す。	A	B	・コロナ対応の調理実習の工夫を更に進める必要がある。 ・より生徒の実態に合うような教材を検討していく。	
	実践力の育成に努める。	・基本的技術の習得に重点を置く教材を工夫する。 ・個に応じた指導を行い、製作意欲の向上を図る。 ・技術検定を推奨し、希望者に補講を行う。	B			
情報	現代の高度情報通信社会に必要な知識やパソコンの基礎的な操作技術を身につける。	・一般的に使われる情報に関する用語の意味を理解させる。 ・情報の利活用とともに、情報モラルを身につけさせる。 ・キーボードからローマ字変換で文字を入力するなど、基本的な操作を身につけさせる。	A	A	・T2のあり方を今一度、考えていく必要性を感じた。 ・生徒の実情に合う授業の展開と工夫を行っていく。	
商業	実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ、必要な資質・能力を育成する。	・ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する能力を養う。	A	A	・基礎学力が定着していない生徒への指導方法の工夫・改善。 ・生徒が実社会で活用できる知識・技術の習得を目指す。	
		・実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ、職業に対する見方・考え方を学ばせると共に、実社会で活用できる知識・技術の習得を目指す。	A			

別紙様式 2

教務	授業時数の確保と偏りの調整に努める。	・曜日と3部間の偏りの少ないバランスのとれた学校行事を計画し、教科の年間授業時数の偏りが少なくなるように努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は新教育課程に接続となる年となるので、履修指導を担当が理解し、円滑に指導ができるようにサポートする。 ・授業公開週間において参観者を増やす工夫をするとともに、公開週間の教科が多く重ならないように調整を行う。 ・テスト期間等を含めバランスの良い学校行事の曜日設定を考え、授業の偏りが少なくなるようにする。 ・学校ホームページをさらに充実させる。
	教務行事の円滑な運営と展開に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌と連携を取り、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑に進める。 ・定期考査の日程や監督表を早めに作成するなど考査の円滑な運営を行う。 ・教務主催の集会や学校説明会などの行事を円滑に進める。学校説明会では中学生が本校を理解し、関心や興味を持てるように体験的な説明会にし、印象に残るように工夫する。 	A		
	授業公開を行い、職員間で授業方法について学び合う機会とする。	・各教科の授業公開週間を設定し、多くの教員が授業参観を行うように呼びかける。また、生徒にとっての「分かる授業」を考える機会とする。参観後の会話やレポート提出等により、教職員相互の授業や指導方法の向上を図る。	A		
	履修指導の充実を図る。	・3回の個別履修期間を設定し、担任が相談を丁寧に行えるように資料等の準備を行い、生徒が適切な履修を行えるようにする。	A		
	情報管理システムのスムーズな移行を行う。	・9月の教務支援システムの変更を見据えて、業務が円滑に移行でき、職員が成績処理や各種帳票類の作成ができるように説明等を行う。	A		
	広報活動の充実を図る。	・学校ホームページや掲示板の充実に努める。	A		
進路指導	生徒一人一人の進路実現を目指して、進路選択及び望ましい職業観・勤労観を育てる。さらに特別支援が必要な生徒の進路指導の充実を図る。	・生徒個々の将来を見通した体系的な進路指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次の進路指導の内容を明確にして、早期から意識付けを行い、体系的な進路指導ができるように努めたい。
		・コミュニケーション能力や協調性、基本的な生活態度を育てるために、就業体験等への参加を促す。	B		
		・進学することは幅広い職業選択につながることを理解させ、作文や志望理由等の指導及び面接指導を早期より実施し、実力をつけさせる。	B		
生徒指導	家庭との連携を密にして、基本的な生活習慣の確立を図る。 社会の一員としてのマナーを身に付ける。	・家庭との連絡を密にし、相互理解に基づく指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり本来の徹底した生徒指導がままならない状況下であったが、それぞれの年次が工夫し丁寧な指導がおこなえた。
		・巡回指導を通して、挨拶・頭髪・服装の指導を行う。	A		
		・生徒指導集会・HRを通して、マナーやルールの大切さを指導する。	A		
		・校外の巡回を行い、問題行動の未然防止に努める。	B		
保健厚生	生徒が学習するための環境を整備する。	・防災マニュアルに基づく安全点検の実施により安全な学習環境を整備する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策との兼ね合いもあり、清掃や学校行事の運営についても立案をし直し、できうる形を常に模索しながら過ごした一年であった。新年度以降はこの状況下で防災関係行事や地域との連携をどのように推進できるか模索が必要だ。
		・清掃活動を積極的に行い、教室や学校内の環境美化に努める。	A		
		・クリーン作戦を効果的に実施し、愛校心やボランティア精神を育む。	A		
	規則正しい生活を送るための心身の健康の充実に努めると共に危機管理能力を高める。	・健康診断結果や調査結果を活用し、健康上の問題点を早期に把握する。	A		
		・日常の健康状態から個々の生活習慣を把握し、規則正しい生活が送れるよう援助する。	B		
		・HR活動等と連携し、将来必要とされる自己管理能力を向上するための知識を習得させる。	B		
・防災避難訓練を通して、危機管理について意識させる。	A				

別紙様式 2

教育相談	問題を抱える生徒や気になる生徒へ支援体制の充実を図る。	・問題を抱える生徒等の早期発見と対応を図るため、カウンセリングコーディネーター・担任・相談係・養護教諭・スクールカウンセラー・キャンパスエイドとの連携を密にし、情報の収集に努める。	A	A	・生徒の情報について連携を密に取り合いながら把握できるよう今後も取り組みをする。コロナによる影響はまだ今後も続くので、環境面の対策（リースペースのアクリル板）等改善すべきところは改善していく。
		・スクールカウンセラーを利用した支援体制と相談活動の充実を図る。	A		
		・特別支援教育への理解と校内委員会活動の充実を図る。	B		
		・教職員研修会の実施により、カウンセリングの技法と生徒理解を深める。 ・キャンパスエイド活動の充実を図る。	B		
	保護者の支援体制の充実を図る	・スクールカウンセラー・巡回指導員を活用し、支援体制と相談活動の充実を図る。	A		
渉外	総会や説明会等で、学校に出かける機会を増やす。	・総会の工夫（懇談会・講演会）により、保護者の出席率を上げる。	B	A	・コロナ禍により保護者等が参加しての行事の実行が難しくなることも考えられるので、幅広い想定を基に柔軟に対応していきたい。
		・年次部会の充実を目指し、全体の協力体制の確立を図る。	A		
	学校の状況等をより多く保護者に提供し密接な連携を図る。	・生徒との面談や保護者との情報交換を密にして、共通理解のうえ適切な指導を細かく丁寧に行う。	A		
特別活動	生徒一人一人が積極的、主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	・自発的・自主的な活動が展開されるように助言や指導を行う。	A	A	・新型コロナウイルスの影響により、行事の精選を行った一年であった。灘潮祭は、校内一日だけとはいえ、ほとんどの生徒が、満足するアンケート結果であった。 ・その時々状況により、学校行事の工夫を行っていく。
		・生徒自らが活躍できる場面を多くつくる。	B		
	ホームルーム活動、委員会活動部活動の活性化を図る。	・創意工夫あるホームルーム計画ならびに運営を援助する。	B		
		・部活動推進及び委員会活動の活発化を図るために内容を精選する。	A		
		・学校の特色を生かしたそれぞれの活動により、学校の活性化を図る。	A		
生徒が生き生きと取り組む学校行事の企画・運営に努める。	・学校行事を充実させ、達成感や連帯感を涵養する。 ・学校行事の改善・精選を行う。	B A			
1年次	基本的な生活習慣の確立	・清潔感ある頭髪と身だしなみを心掛け、挨拶や返事を励行させる。集団生活のマナーを身に付けさせる。	A	A	・新型コロナウイルスの影響ですべて計画通りに運営することはできなかったが、高校生としての意識を高めるために、年次集会やLHR等を通して、意識向上につながる指導は行うことができた。引き続き工夫改善に努め指導していきたい。
		・生徒指導集会、「道徳」やLHR等を通して、規範意識の向上を図る。	A		
	学校生活の充実	・「道徳」（グループワーク）やLHR活動を通じてコミュニケーション能力を高める。	A		
		・個別面談・保護者との面談を通して、生徒理解に努め円滑な学校生活を送ることが出来るように働きかける。	B		
		・生徒の能力に応じた学習目標を設定し、学習意欲を向上させる。	A		
	各々に応じた適切な進路指導	・生徒の進路目標に適した資格取得・検定試験のためのフォローをし、各々に応じた適切な進路情報の提供及び助言を行う。	B		

別紙様式 2

2年次	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人を大切に、保護者との連携を通して基本的生活習慣の確立に重点を置いた指導を行う。 教室環境の整備と衛生指導を通して、健康で安全な生活が送れるように指導する。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き家庭と連携して基本的生活習慣の確立を図る。 進路に対する意識の向上を促し、進路情報の提供と各個人に適した指導に努める。
	学校生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の課題を明確にし、学習目標の設定と振り返りを通して学習意欲の向上を図る。 LHRや総合の授業を通して、コミュニケーション能力を高める。 	B		
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 職業と働き方について考え、ライフプランを立てることにより、卒業後の進路に対する目標をもたせる。 個々の生徒に適した進路情報を提供するとともに、資格取得指導やガイダンスを行う。 	B		
3年次	進路指導の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識の高揚を図り、個別指導を徹底する。面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自分の進路に対して的確な判断ができるようにする。 進路指導が円滑に進むよう、進路指導部や保護者との連携を密にする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響を受けての就職活動であったが、それぞれ自己実現に向けて頑張っている生徒が多かった。 基本的生活習慣の定着が図れず卒業を心配される生徒がいた。普段からの指導の大切さを感じた。
	基礎学力の向上と個に応じた指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に真摯に取り組み、自ら積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 各種検定試験への取り組みを通して、目標達成の自信と喜びが味わえるように援助する。 	A		
	基本的生活習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守り、規則正しい生活を送れるようにする。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 服装、身だしなみを整え、卒業年次として気概を持って行動できるようにする。 			
4、5年次	生徒指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 年次間の連携や家庭との連携を密にし、個に応じた指導を心がける。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 卒業に向けてよく頑張っていた。
	進路希望の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自分の進路に対して的確な判断ができるようにする。 	B		

※ 評価規準： A：あてはまる。 B：ややあてはまる。 C：どちらともいえない。 D：あまりあてはまらない。 E：あてはまらない。